

労働災害防止研修会を開催しました。

11月8日（水）、日本教育会館において、平成29年度労働災害防止研修会を開催しました。

この研修には、各協会にて技術・安全関係を指導する立場にある会員44名が出席し、冒頭に林土連技術・安全委員会の堀川会長から開会挨拶をいただきました。

今回の研修会は、福島第一原子力発電所事故から6年が経過しますが、放射線量が高い地域で津波災害の復旧工事や除染作業に関係している会員もいることから、放射性物質等に関する内容とし、林野庁からこれに関する啓発事業を受託している（一社）全国林業改良普及協会の御配慮をいただき、専門家の出前講座の一環として実施しました。

まず、国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構の吉田 聡経営企画部長（博士）から「放射性物質の環境中の挙動とその影響ー特徴と展望ー」と題して、理解しにくい放射能について、専門家の立場からわかりやすく御教示いただきました。

次いで、林野庁研究指導課の山崎敬介課長補佐から「林内における放射性物質等の現状」などの情報提供をいただきました。

目には見えませんが、場合によっては重篤な健康被害をもたらす放射線ですが、問題となるセシウムは林内では土壌表層にほぼ固定されており、むやみに恐れる必要はないことや、放射線量が高い地域で作業をせざるを得ない場合は、厚生労働省の規則に従うべきことなどを御教示いただきました。

東北地方で現場作業に従事する際の参考になることはもとより、日々の生活の中で放射能に向き合うスタンスを学ぶことができたものと考えています。

お忙しい中、この研修会にお越しいただいた講師の皆様方には、改めて御礼を申し上げます。



吉田先生の御講演



山崎課長補佐の御講演